

敵基地攻撃ミサイル配備

陸自専守防衛の転換点に

陸上自衛隊は、敵基地攻撃能力（反撃能力）を担う長射程ミサイルを31日から配備する。軍備拡大を続ける中国を念頭に、海自、空自でも同様の準備が進む。相手が攻撃に着手したと判断すれ

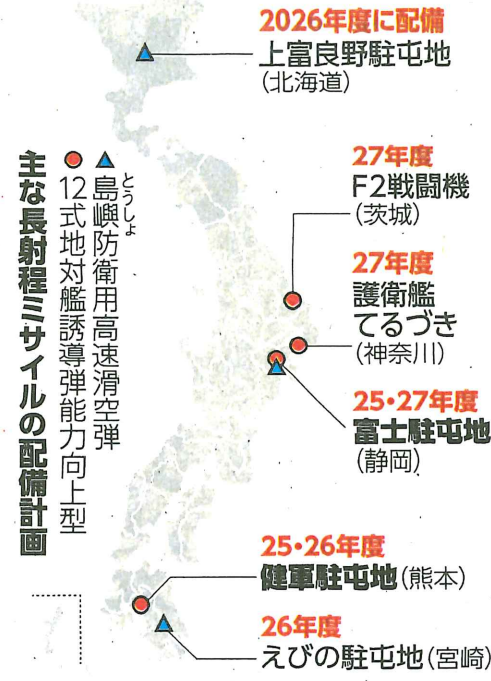
ば相手領域内のミサイル拠点をたたくことも想定した装備であり、「専守防衛」を掲げてきた日本の防衛政策の大きな転換点となる。

▼3面Ⅱ残る課題
敵の射程圏外から攻撃

できる長距離の「スタンダード・オブ・ミサイル」の保有は、2022年末に改定された安保3文書に明記された。防衛省は陸海空の自衛隊で順次、配備先を増やしていく。31日に配備されるの

は、健軍駐屯地（熊本）に中国の沿岸部や台湾周辺の海域にも届く射程1千キロ程度の「12式地対艦誘導弾能力向上型」、富士駐屯地（静岡）には変則軌道で飛ぶ「島嶼防衛用高速滑空弾」。これらの国産ミサイルは今後、えびの駐屯地（宮崎）や上富良野駐屯地（北海道）にも配備し、滑空弾は改良して射程2千キロ程度に伸ばす。海自、空自も護衛艦や戦闘機での運用を計画している。

加えて、海自は米国製巡航ミサイル「トマホーク」を搭載できるようイージス艦ちようかいを改修し、乗員の訓練を終えたと27日に発表した。射程は1600キロ程度で、海外で発射試験をしたうえ、9月ごろに佐世保基地（長崎）に帰港し、本格的な運用を始める。空自も13日に、ノルウエー製の巡航ミサイル「JSM」の納入を始めたと公表している。最新鋭のステルス戦闘機F35Aで運用する見通し。



公開された長射程ミサイルの装備品「12式地対艦誘導弾能力向上型」の発射装置＝17日、熊本市

中国は射程5000〜5500キロの地上発射型を2千発近く保有しているとみられ、日本は米軍と合わせても、この地域での戦力差は大きいとされる。防衛省は長射程ミサイルの配備を進めることで、ミサイル戦力のギャップを埋めることをめざす。

（矢島大輔）

出典：「朝日新聞」2026年3月31日付

議第3号別紙2附(2)

調 第 640 号

昭和42年7月25日

防衛施設庁長官 小 幡 久 男 様

静岡県知事 竹 山 祐 太 郎

東富士演習場における30型ロケット試射の実施について（照会）

昭和42年7月22日付をもって依頼のありましたこのことについては、地元の現在の情勢から判断して、これを納得させることは極めて困難であると考えます。

しかしながら、その緊急性に鑑み、最少限下記の条件のもとでこれを6月7日以来続会中の現地協議会において、協議を整える努力を致したいと考えておりますので貴見をうかがいます。

記

1. 東富士演習場又は、その周辺をミサイル基地化しないこと。
2. 30型ロケットの試射は14発に限ること。

(中略)

議第3号別紙2附(3)

施本第1969号（CFC）

昭和42年7月25日

静岡県知事

竹 山 祐 太 郎 殿

防衛施設庁長官

小 幡 久 男

東富士演習場における30型ロケット弾試射の実施について（回答）

昭和42年7月25日付調第640号をもって、ご提案のありました件につきましては、了承いたしますのでよろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。 以 上

R30型について

1. (問) 東富士演習場またはその周辺にミサイルを持ちこまない。
(答) 貴見のとおり。

(中略)

昭和42年8月6日

東富士演習場現地協議会 於 東京

答弁者 防衛施設庁施設部長

鐘 江 士 郎

質問者 東富士演習場地域農民再建連盟副委員長

小 林 茂 理

立会人 静岡県企画調整部調整課長

杉 山 総 一 郎

同 御殿場市総合開発部長

勝 又 保

出典：御殿場市役所「東富士演習場重要文書類集 上巻」（1982年発行）632～639頁より山添拓事務所作成